

# セ ン サ ー

1993年 1月号 第26号

東京温度検出端工業会 会報

## 新春に当って

会 長 西 村 明

会員の皆様、明けましてお目出とうございます。

新年と云えば、今年は良い年であります様に、この願いが込められているものですが、どうも今年は難しい年になりそうです。

と云うのは、所謂複合不況とやらで、今年の景気は漸く不況の底は打ったものの、そこからの立直りは当分望めず、本年中は底ばいの状態が続くと云う見方が多い様です。中には、秋から快復するとする筋書もありますが、それにしても、快復の角度は鈍いと云われています。しかも世界を見渡しても、良い処はあまりありません。

アメリカはここ数年の不況から漸く立直りつつあり、特にクリントン新大統領の就任と云う行事に合わせて本年こそ景気の上昇を見込んでいる様です。しかし財政、貿易の双子の赤字は依然解消せず、失業率も僅かに好転しましたが好況とは程遠いものを感じさせます。更に日本の輸出に対しては貿易バランスの上から今後厳しい対応がされるだろうと予想されています。

欧州はトップランナーのドイツが、東独併合の後遺症からまだ立直れないのが周辺諸国にも影響して、この1年の成長率は殆んど0に近いとされ、本年度に実施されるEC統合も肝心の通貨統一が実現不可能では、どれ丈実効が上るか疑問視される処です。

旧ソ連を始めとする東欧諸国はいつれも急激な社会変革に適応出来ず、西側諸国のお荷物になっていますし、南米やアフリカの発展途上国も成長路線に乗った処はまだ少ない様です。

唯一成長率の高いのは、中国を含むアジア諸国であり、世界の期待も此処に集まっている様です。と云ってもこの地域の発展が先進諸国の不況をカバーする程の力はまだ無いので、矢張日本が内需を拡大する事により、自らも不況を脱出すると共に、先

進諸国の不況克服の呼び水となる事を期待されています。

その内需の拡大の為には、先般発表された10兆7千億の公共投資を軸とする景気対策だけでは不十分で、4兆円の所得減税が必要であると云われています。しかし政府としては、減税は財源が無いので実施出来ないと云う事で、本年度の予算の内には入っていません。漸く年末になって、株価がダウ1万7千円を割るという現実を見せつけられたので、減税も考へるとの首相談話がありましたが、どうも又景気対策としては後手に廻りそうです。

発表された数字によれば、日本の課税最低限度は標準の4人所帯で年収320万円、英国は126万円、米国は200万円で我国の方が良いと云う事ですが、実際問題としてサラリーマンであれば高校新卒でも必らず所得税を取られる事は間違いありません。税金を払はない人があるとすれば一部自営業者か農業者であり、所謂所得の捕捉率がサラリーマン、自営業、農業について10対5対3であると云われている、その分がそのまま税金を払っている割合にも適用されていると見てもあまり相違は無いと考えられます。しかもこの発表数字は最高税率と云っていませんが、この方になると大国の内では日本が最高で65%（地方税を含む）ドイツの50%が日本に次ぎ、英米はそれ以下です。福祉国家として有名なスエーデンは日本より高いのですが、その代り福祉の方では日本よりはるかに充実しています。この点からもサラリーマン減税は是非必要であると思います。

少々話題が理屈に走りましたので、身近な処から今年の明るい話題を申し上げたいと思います。

当工業会は本年で創立20周年を迎えます。創立に多少とも関係した私に取っては、もうそんなになったかと云う思いもありますが、何か20周年を記念して行事を行いたいと考えております。その一案として、先に会員の皆様に海外旅行のアンケートを取りました。別に海外旅行と決めた訳では無く、記念行事としてふさわしい事であれば良いので、会員の皆様から何か良い企画があればお智恵を拝借したいと存じております。又工業会として企画するのであれば、海外旅行でも単に物見遊山の旅では無く、特に先に申上げたアジア諸国の発展の様子と、その地区の日本からの進出企業の見学等を盛り込もうと存じております。従いましてもし旅行を実施致す様になりましたら、特に各企業の経営者の方に従業員を参加させて戴ける様にお願ひ申し上げます。

いずれにしても新しい年は既にスタートしました。我々も後退する事なく、この新しい年と共に前進をして行きたいと念じています。会員の皆様の一層の御繁栄を祈念し当協会への倍旧の御支援をお願ひ申上げる次第です。

# 初めてのアメリカ出張

西田京市

昨年10月、私はアメリカへ出張する機会を得た。入社当時、仕入れを担当する私にとってアメリカへ出張するなどとは夢にも思わなかった事で、決まった時には期待と不安と緊張で私は複雑な気持ちにおそわれた。しかしながら今回の目的としては特別にむずかしい課題があった訳ではなく、仕入先訪問とアメリカをこの目で見聞きし、その中から何か吸収できるものがあればと言う事であったので、幾分気持ちとしては楽であった。

10月16日いよいよ出発の日が来た。それまでの不安と緊張が、飛行機に乗り込むと同時に全てが消え、期待感だけが私の心を支配した。そして快適な空の旅を続けると飛行機はいよいよニューヨーク JFK 空港に到着。ここで今回の出張のアテンドをしてくれるK氏と合流。マンハッタンを案内してもらう。その夜、私は1人でマンハッタンを歩く。昼間の活気がウソのように、まだ9時だと言うのに人影はまばらでネオンだけがまぶしい。これがアメリカかと目を疑う。あとでK氏に聞くと、アメリカでは仕事が終わると、ほとんどの人は家路につくと言う。そのあとで家族で食事にする事が多いらしい。そう言えば、あとで行ったシカゴ、サンフランシスコの夜も静かだった事が思いうかばれた。

次に私はデトロイトへ飛び再びK氏と合流。そしてオスキンス社へ行く。前日は雪がパラソキ、この日も快晴ながらとても寒い。私達は打合せのあと工場を見学。何か新しいものがないかと目をこらしたが、金属の線材を製造しているだけと言う印象で特別に見るべきものはなかった。又あまり活気が見られず、これで大丈夫なのか心配になった。

次に私達はシカゴへ飛びリッチモンドにあるゴードン社を訪ずれる。シカゴから車で約2時間のところにある閑静な田舎町だ。初めて見るシースワイヤーの製造工程が参考になったが、あとは特別に見るべき物はなかったし、話し合の中からも特に新しい発見は見られなかった。

次はセントルイスだ。空港で私達はワトロ社(O氏)の出迎えを受ける。ワトロ社の整然した工場、カートリッジヒーターの製造工程などとても興味をもつ。それ以上に私は、この美しい町セントルイスが好きになった。落ちついた街並み、ミシシッピー川に浮かぶ船上での食事。ミズーリー大学で開かれたシンポジウムへの参加、カントリーバーでの楽しいひととき。私にとって忘れえぬ1日となった。

又、最近アジアに対する関心が高まっているらしく、今回のシンポジウムも「アジアへの進出」という議題で、今まであまりなかったこのようなセミナーが最近頻繁に開かれるようになったらしい。やはりアメリカも必至なんだろう。

ここで私はK氏と別れ、1人ロサンゼルスへ行く。ロッキー山脈を見おろしながらの4時間のフライトは満足なものであった。到着後、時差の為2時間時計を戻す。こんなところにもアメリカの広さを知る。ホームレスの黒人がゴロゴロする路地を通りホテルに入る。特にこの辺は治安の悪い所らしく、黒人に何度も Give me money と声をかけられ、昼でも1人で歩くのは勇気がある。ここで私共の販売先を訪問。対話の中にアメリカ市場の大きさ、相手の意気込み、見通しの明るさを感じ満足する。このあとサンフランシスコにわたる。そこから車で約1時間半のところにあるサンタクルーズという町にある、放射温度計のメーカーの、レイラク社に行く。素朴な外観に比べ、

中はコンピューターに囲まれたハイテクの世界。これがアメリカの企業かと鮮烈な印象をうけた。又この会社のこれからの発展性を十分に感ずる事ができた。

そしてサンフランシスコに戻り帰路につく事になる。これで約2週間にわたる出張が終る訳だが、他の印象として私の心に残った事は、まずは空港の広さと、よく整備されている事で、国内線ならば乗るに20分もあればOKだ。又道路、駐車場の広さ、レンタカーの多さは日本では比較にならない。

又、仕事の上で困った事は、やはり言葉の問題だった。通訳を通しての打合せは、時間が多くかかったり、細かな点の伝達がうまくいかなかったりで言葉が通じないという事は致命傷だ。又、習慣、考え方の違いはどうしようもない事で、それをどのように克服するか、又、いろいろな人種がいるアメリカを私達は理解し、又、理解されるよう常に努力していかなければいけないとつくづく思いました。

又、もう一つ心に残った思い出としてナイアガラの滝がある。まわりの紅葉との調和した景色は口では言えない程美しく、ここに一人でいるのが残念で是非家族にも見せたいと思った。他にもセントルイスの町、サンタクルーズの海。美しい景色が思いうかばれる。私はアメリカという国が不思議に思えてならない。大都市に見られる黒人のホームレスの多さがとてもアンバランスな感じをおこさせるし、今度はまた違うアメリカを見てみたいと思いました。

最後にこの出張で協力していただいた皆様に感謝し、この報告を終わりにしたいと思います。尚成田へ着いた時の安堵感は決して忘れる事はないでしょう。

完

## 第25回「けんたん会」報告

5月29日、平塚富士見カントリークラブ、参加者 12名

天気もコースも申し分のないコンディションのなかで行うことが出来ました。今回は初参加の方が3名おられました。二宮電線工業(株)の西尾さん、大昌エンジニアリング(株)の木元さん、石福金属興業(株)の小澤さんです。

この回の出場者はおそらく年間数回から10数回コースに出る程度のごく平均的な人達と思います。

今後も気楽に参加していただきたいと思います。参加12名のスコアは下記の通りです。

どのスコアが誰のものかは秘密です。

106、98、108、95、89、107、126、112、86、128、103、107、平均 105.4。

成績		グロス	ネット	
優勝	津越 宏氏	86	72	2連勝
2位	梶 芳幸氏	89	79	

以上

## 第26回「けんたん会」報告

12月8日、相模湖カントリークラブ、参加者 10名

季節はずれの大雨で雷も鳴り、朝のうちはほとんど絶望的な状態で早い時間にスタートの予定だった人達はあきらめて帰る人達がほとんどでした。天気予報は午後から晴れるということでしたのでわずかに望みをつないでいたところ10時頃になって急速に晴れ上がり、地面はぬかるんでいたものの暖かく気持ちよくプレーすることが出来ました。この回何かと天候にはめぐまれないことが多いのですが今回ばかりは本当に幸運でした。

優勝されたのは、少し体調をくずされて7～8年ぶりに前回から復帰した相互電機㈱の荻野社長です。本当によかったですね。

成績		グロス	ネット
優勝	荻野紘一氏	95	75
2位	木元利政氏	104	78
平均スコア	111		

以上

## 会の動き

- ◎平成4年2月7日 新春懇親会  
築地「スエヒロ」において 参加者36名 来賓4名  
会報「センサー」25号発行
- ◎ " 3月12日 講演会  
評論家 杉田望氏により「東南アジアとウルグアイランド」について  
参加者20名
- ◎ " 4月 日本サーモウェル㈱退会
- ◎ " 5月29日 ゴルフコンペ  
第25回「けんたん会」を平塚富士見カントリークラブで開催  
参加者12名
- ◎ " 6月 ジョンソン・マッセイ・ジャパン㈱入会
- ◎ " 6月5日 第19回定時総会  
事業報告 会計報告 平成4年度事業計画を承認  
通産省計量行政室より 計量法改正について講演  
総会終了後 懇親会を行う 参加者30名
- ◎ " 6月26日 技術懇談会  
都立工業技術センターにおいて「中小企業における製造物責任と「ISO 9000」という演題で東京都技術アドバイザー 齋藤元雄氏により行う  
同じく 第7回世界温度シンポジウムに参加した会員の 宮本誠一、  
浜田登喜夫、池上宏一、工業センター 尾出順 各氏により報告があった  
参加者25名
- ◎ " 9月3日 技術講演会  
「ISO9000と計量標準の認証制度について」  
講師 小川実吉氏 参加者33名
- ◎ " 10月 電気金属㈱入会 助川電気工業㈱退会 助川計測㈱入会

- ◎平成4年11月10日 工場見学会  
 ㈱野毛電気工業 殿 日本発条㈱ 殿 参加者20名
- ◎ " 11月19日 技術懇談会  
 都立工業技術センターにおいて  
 「R熱電対の劣化特性について」  
 田中貴金属工業㈱ 浜田登喜夫氏  
 「ANSYSによる表面温度の解例」  
 工技センター 中島敏晴氏  
 「高温用測温抵抗体試験装置について」  
 工技センター 尾出 順氏
- ◎ " 12月8日 ゴルフコンペ  
 第26回「けんたん会」相模湖カントリークラブ 参加者10名

## 理 事 会

### 平成4年2月7日

- ◎3月12日に杉田望氏による講演会を行うこと。
- ◎総会を6月5日に行うことを決定。

### 平成4年4月9日

- ◎平成3年度各報告、4年度事業計画を承認。
- ◎日本サーモウェル㈱の退会を承認
- ◎ゴルフコンペを5月29日に東海倶楽部で行うことを決定。

### 平成4年6月5日

- ジョンソン・マッセイ・ジャパン㈱の入会を承認。
- ◎6月26日と9月3日に、技術講演会を行うことを決定。

### 平成4年9月3日

- ◎工場見学会、技術懇談会、ゴルフコンペ、日時及び内容を決定。

### 平成4年10月

- ◎電気金属㈱の入会を承認。

### 平成4年12月3日

- ◎新春懇親会を神田「鯛屋吉兵衛」において2月5日に行う。
- ◎20周年記念事業について報告、なお時間をかけて検討することとする。
- ◎助川電気工業㈱の退会と助川計測㈱の入会を承認。
- ◎3月に予定している講演会は、脱フロン、トリクロロエタンについて講師を探すことにする。

## 工業計器生産額及び対前年比(通産省生産動態統計)

生 産		'92/4月	'92/5月	'92/6月	'92/7月	'92/8月	'92/4～8月
工業計器	金額(百万円)	29,907	20,040	23,598	22,039	21,854	117,438
	前年比(%)	-5.8	-3.8	-4.7	-17.8	-4.7	-7.6
温度計	数量(台)	15,099	15,762	16,381	17,114	18,044	82,400
	金額(百万円)	494	457	507	519	534	2,511
✓	前年比(%)	22.3	-11.4	-8.0	-2.6	22.8	3.0
	数量(台)	8,581	4,921	5,659	6,988	6,568	32,717
圧力計	金額(百万円)	1,098	799	853	986	845	4,581
	前年比(%)	-6.4	-12.3	-5.3	-4.8	-17.4	-9.2
液位計	数量(台)	2,019	2,371	2,300	2,066	1,874	10,630
	金額(百万円)	422	394	457	463	464	2,200
液量計	前年比(%)	48.6	34.9	26.9	52.8	38.5	39.8
	数量(台)	9,630	8,656	9,556	9,623	9,613	47,078
✓	金額(百万円)	1,939	1,679	1,853	1,904	1,827	9,202
	前年比(%)	-18.9	-6.9	-11.7	-10.4	-14.9	-12.9
その他の諸量計	金額(百万円)	1,243	1,161	1,364	1,231	983	5,982
	前年比(%)	-5.8	-18.6	-15.9	-12.8	-16.6	-14.0
指示記録計	数量(台)	13,242	14,354	19,317	16,078	23,515	86,506
	金額(百万円)	1,390	1,359	1,604	1,471	1,422	7,246
調節計	前年比(%)	-4.6	-1.8	4.2	-5.8	-6.9	-3.0
	数量(台)	20,884	25,534	23,274	22,529	25,842	118,063
✓	金額(百万円)	1,156	1,145	1,276	1,209	1,167	5,953
	前年比(%)	-8.7	-18.9	-4.7	-10.3	-10.2	-10.7
補助機器	数量(台)	18,822	18,528	21,818	23,537	19,221	101,926
	金額(百万円)	665	659	727	780	689	3,520
操作器	前年比(%)	-25.4	-13.4	-10.7	-9.7	-16.3	-15.2
	数量(台)	3,504	2,688	3,007	3,390	3,126	15,715
プロセス用	金額(百万円)	960	630	605	820	979	3,994
	前年比(%)	14.1	-8.0	-22.2	-27.7	-1.2	-9.8
分析計	数量(台)	715	629	686	655	715	3,400
	金額(百万円)	554	298	334	396	461	2,043
プロセス監視	前年比(%)	18.6	-17.9	-24.3	-7.9	-2.5	-6.0
	数量(台)	4,083	6,954	5,925	3,705	3,618	24,285
制御システム	金額(百万円)	13,812	5,711	8,442	7,261	7,387	42,613
	前年比(%)	-5.7	-7.0	-2.2	-25.6	-7.5	-9.8
その他の工業計器	金額(百万円)	6,174	5,749	5,575	5,000	5,096	27,594
	前年比(%)	-6.5	12.1	-1.9	-20.7	7.9	-3.0

(日本計測器工業会会報12月号による。)

## 編集後記

最近はどうなにお合いしましても景気の悪い話しばかりです。10~20%の売り上げ減はあたりまえ、ということでしょうか。もともと経済というものは人間の生活活動が生み出しているものですから波動性をもっているわけで、永久に拡大するということも無いかわりに際限なく縮小してゆくというものでないでしょう。そうはいっても今回の不況はこれまでの不況とは違うぞ、ということもよく耳にする言葉です。確かに違う側面はもっていると思います。その最大のものはいわゆるバブルの崩壊で、もうひとつは家電製品、自動車の需要の成熟化でしょう。バブルの崩壊については、その間接的な影響は大いに受けるにしても、それは我々のように地味に製造業を営んでいる者にとっては直接関係のないことで、むしろそれが是正されることは社会的には良いことではないかとさえ思います。家電製品や自動車も人間が生活レベルを大きく切り下げない限り一定の需要はあるはずで高成長は望めないまでも回復してくるでしょう。

かんじんなのはこの不況のなかで生き残ることです。政府発表のデータでは売り上げを伸ばしている企業数から減らしている企業を差し引いた指数がマイナス40%ほどあるといえます。マイナス40%という数字は確かに大きいものですが、考えようによっては、この不況のなかにあっても売り上げを伸ばしている企業が30%もあると考えたらどうでしょう。不況のただなかにある時は先が見えず落ち込んでしまいがちです。

よく夜明け前は一番暗いといえます。報道によりますと米国の景気は既に底を打ち、回復過程に入っているようです。そういつまでも不況は続かないはずです。何とか知恵を働かせて生き残りましょう。

1992年12月記。

平成5年1月発行 No.26

発行所 東京温度検出端工業会

事務局

東京都文京区本駒込6-5-5 (林電工株式会社)

電話 3945-3151